

【令和3年度 授業改善推進プラン】

板橋区立富士見台小学校

【算数】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な四則計算の理解はされているが、ミスが多く定着が十分とはいえない。 ・ 積極的に発言するが、筋道を立てて考えて、説明する力が不十分である。 ・ コンパスや三角定規など、教具を扱うことが苦手な児童が多い。 ・ 小数の乗法、除法の計算や、分数についての計算、また単位量も習得不十分である。 ・ 課題解決に向け、自分の考えを図など用いて説明できなかったり、友達の考えを聞き、取り入れたりするのが苦手である。 ・ 文章題などを解決するための読解力が苦手な児童が多い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決をするために、筋道を立てて考える力、自分の考えを表現する力を伸ばすための指導の工夫が必要である。 ・ コース内でも習熟の差が大きく、全体指導だけでなく、個に応じた指導の工夫が必要である。 ・ 既習内容を忘れないよう、繰り返しの学習や既習事項を活用させるようにしていく必要がある。 ・ 問題をよく読み、理解し、必要な情報を整理する手法を身に付けさせる必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p><u>◇数学的な考え方を伸ばすために</u></p> <p>○問題解決型・探究型の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決型の授業を行い、めあてを明示して課題をもたせ、自力解決の時間を設定する。 <p>○協働学習の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団解決の検討場面で、解決方法を言葉や式、図などを用いて発表する場面を設定する。考えに対して共通点、相違点について考えられるように指導する。 ・ クロームブックやミニホワイトボードを使って思考を共有し、話し合いの活性化を図る。 <p>○指導と評価と支援の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自力解決に必要なヒントを、理解度に応じて準備する。机間指導やノート点検から、児童の理解度にあつたヒントを提示し、視覚的な支援を入れながら、自力解決の支援をする。 ・ めあてに即した振り返りを自分の言葉で書かせることで、1時間の学習内容を定着させる。 <p><u>◇読み解く力を伸ばすために</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間の中に、認識・思考・表現の活動を取り入れる。 <p><u>◇表現する力を伸ばすために</u></p> <p>○問題解決型・探究型の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを言葉や式、絵や図などを用いて表す指導を重視し、友達の考えを説明する学習活動を授業の中に意図的に取り入れる。 ・ 既習事項とのつながりを重視し、計算の仕方や作図の技能を身に付けさせる。 <p><u>◇適応・応用する力を伸ばすために</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京ベーシック・ドリルを活用し、今までの学習の振り返りや、基礎・基本の内容を充実させる。 ・ 条件過多、条件過小の文章題を意図的に提示し、解決に必要な条件を考えさせる指導を行う。また、児童が葛藤する場面や数値を適度に取り入れ、問題解決力を高める指導を行う。 ・ 日常生活の中から課題を作成する。 <p><u>◇個人差に応じた指導をするために</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導で単元や学習内容に応じて習熟度別分割で指導を行う。 ・ 学力向上専門員を活用した複数体制の指導を行ったり、放課後のステップアップタイムを活用したりして、個人差を考慮した指導を行う。